

今後当院も DPC に参入していくのであるが、このことにより薬剤はほぼすべてとってよいほど包括医療となっていくことは確実である。そのため、今後できる限り持参薬を使用しなければならない状況となってきた。まず持参薬を使用することでどれほどの病院負担の軽減につながるのかを調査した。また当院における持参薬使用に伴うリスクも述べることにする。当院では 2006 年、全入院患者に対して薬剤師が患者側と面談を行うことによる入院時持参薬チェックを試行したが、それ以外の日常業務に追われ、長くは続かなかった。これらのことより、当院では、現時点で患者側と面談を行うことによる入院時持参薬チェックは行うことは難しい状況であるが、入院後の持参薬管理体制を整備することにより、持参薬のリスク軽減につながればよいと考えている。現在当院において正規の持参薬の運用マニュアルが存在しないため、持参薬の扱い方が各病棟、薬剤師間でもまちまちとなっている。よってリスク軽減を念頭においた持参薬管理体制を改善、統一そして整えていくため今回これを研究テーマとした。